

麦類技術情報No. 6

平成29年4月26日

麦類栽培者 各位

JA 営農支援課
大潟村麦類生産班

銀河のちからの後期追肥について

現在の小麦の生育は平年並の推移となっており、間もなく減数分裂期を迎えようとしております。銀河のちからを栽培されている方はパンや中華麵の原料として必要なタンパク含有量を確保するため、下記を参考に後期窒素追肥をお願いいたします。

1. 後期追肥量の判断基準について

止葉期の茎数	葉色 (SPAD)	追肥窒素量の目安
600 本 / m ² 未満	55 以上	2~3kg/10a
	55 以下	3~4kg/10a
600 本 / m ² 以上	55 以上	3~4kg/10a
	55 以下	5~6kg/10a

・後期窒素追肥として止葉抽出期(全茎の 40~50%の止葉が展開した日)~穂揃い期(全茎の 90%が出穂した日)に窒素成分で 4kg/10a を施用することにより源粒タンパク質含有量 11.5% 以上、容積重 833g 以上を確保できる。

・止葉抽出期の有効茎数が 600 本/m² 未満で葉色が SPAD 値 55 以上であれば、止葉抽出期~穂揃い期追肥量は窒素成分で 2kg/10a に減じてよい。

(岩手県農業研究センター試験研究成果書より)

裏面に続く

2. 出穂の判断について

- ・ほ場の出穂期とは、全基数の4～5割が出穂した日です。
- ・ほ場の穂揃期とは、全基数の8～9割が出穂した日です。
(穂揃い期は出穂期の1～2日後)

3. 今後の病虫害防除について

【赤カビ病】

ラジコンヘリによる1回目の小麦の赤カビ病及びうどんこ病の防除(シルバキュアフロアブル)は5月中旬を予定しております。2回目は1週間後にトップジンMゾルとスミチオン乳剤にて散布させていただきます。不明な点はJA営農支援課齊藤(45-3033)までお問い合わせください。